

図書館実習という経験の尊さについて

図書館実習事前指導 I 講演録 2019年11月30日

伊藤 舞乃（社会学部現代文化学科）

みなさんこんにちは。社会学部現代文化学科4年の伊藤です。今日は去年の夏に行かせていただいた図書館実習の経験と、最後にその後の進路決定について少しお話いたします。

私は地元の立川市中央図書館に二週間実習に行きました。実習というのは当然座学とは違いますから、どんなに真面目に司書課程を学んでいても当然失敗することや職員の方に迷惑をかけてしまうことはあります。今回は私の失敗談を聞いていただいて、少しでも皆さんの緊張をほぐすことができればと考えております。まず初日です。中央図書館は市内では一番蔵書数も多いので、予約本も多いです。そして受け取り館は利用者の方が選ぶことができるので、毎日中央図書館と地区館の間で資料がいたりきたりしています。返却された本の処理をして、地区館へ送る本と館内に戻す本の仕分け作業をしていました。予約が入っていて、なおかつ地区館へ送る本にはその旨のレシートを挟むのですが、地区館へ送る本に挟むレシートを館内に戻す本に挟んでしまい、予約本が行方不明になるという大事件を起こしてしまいました。結局、ほかの本と照らし合わせて職員の方が見つけてくださったのですが、気づかずに輸送していたら、利用者の方に予約本が届かないという大変な事態を招くところでした。だいぶ落ち込みましたが、職員の皆さんが笑ってくれたので救われた気持ちでした。

もう一つ挙げるならば、心配している方も多であろう児童への読み聞かせでしょうか。心配しないでください、私も失敗しました。午前中に行われた乳幼児対象の読み聞かせを見学させていただき、「これならいける」と過信してしまったのですよね。親御さんに抱っこされた赤ちゃんたちがしずか〜にお話を聞いている、この上なく平和な空間だったからです。そして午後からの4歳以上を対象とした場で絵本を一冊、読み聞かせることになりました。絵本と手遊びを交互にやるスタイルで、私の出番の前の手遊びが尋常ではない盛り上がりを見せてしまったのです。みんな立ち上がって顔を真っ赤にして大騒ぎ。その後の絵本の読み聞かせなんて…みんな全然、聞く体勢に入っていないのです。私は子供たちを落ち着かせる技術なんて持っていないのでそのまま読み始めました。すると「この本読んだことある」と叫ぶ子や手遊びの時の歌を歌いだす子…心が折れそうになりながらもそのまま読み終え、後ろで聞いている親御さんたちの拍手に救われながら出番を終えました。最後に来た証としてシールを貼るのですが、子どもたちが「ありがとう」と言ってくれて、どう考えてもシールをくれたことへのお礼なわけですが、報われた気がしました。こんな読み聞かせでも職員の方は「よかった」「声が読み聞かせに向いている」とフォローしてくれました。印象深いものの一つです。

これ以外にもカウンターでフリーズしてしまったり、書庫の本を全然探し出せなかったり、ミスなんて山ほどあります。私が一番伝えたいのは「それでも、図書館実習、めちゃめちゃ楽しかったよ!」ということなのです。間違えても、てんぱってしまっても、きちんと話を聞いて、わからなければもう一度質問しに行く、この基本さえできていれば、職員の方は絶対に怒らないし、丁寧に説明してくれます。二週間なんてあっという間です。私は最終日が近づいてくるにつれて「もう終わりなんだ…」と寂しくなってくるくらいでした。もちろんへとへとになります。心身ともにへとへとになりますけど、それでも私は「図書館を回す一

員になれているんだ」という喜びと充実感でいっぱいでした。小さいころから通っていた地域の図書館だったのでひとときわそういった気持ちは大きかったのかもしれませんが。とにかくきちんと寝ることが大事です。余裕のある方は実習館の際に、雑誌はこの辺、小説はこの辺…と大体の書架の配置を把握しておくとお実習がはじまってから楽かもしれません。

それでは、このあたりで進路の話に移りたいと思います。皆さんすでに説明は受けているかと思いますが、一般的に図書館司書になる場合は公務員試験への合格が必要になります。

「図書館司書」の採用試験を受ける場合は専門試験も併せて受験することになります。もし、皆さんの中で今2年生で「チャンスがあれば司書になれたらいいなあ」くらいの希望をお持ちの方には、市区町村、都道府県の公務員を目指すという選択肢があることをお伝えしておきたいと思います。一般職としての採用になりますので、必ず司書になれる保証はありません。総務課や人事課かもしれません。しかし、もし公立図書館の司書枠が開いた場合、すでに司書資格をお持ちの皆さんは移動調査の際に有利であることは確かだと思います。実習館では、ほとんどの職員の方が一般職として採用され、図書館に異動になって初めて、短期で大学などで司書資格を取って働いておられました。異動後に資格を取る必要がないことは大きいと思います。私の友人にもそういった動機で特別区(23区)を第一志望に予備校に通っていた子がいます。ちなみに私はもともと公務員志望でしたが、もし都や市区町村に採用になったら司書になれたらうれしいなというくらいの気持ちでした。国家など幅広く受験し、最終的にはお給料と立地で、司書にはなれないところへの就職を決めてしまいました。

最後に就職活動一般についてですが、私は民間の説明会や面接にはいったことがないので確かなことは言えませんが、どんな採用試験であっても「図書館実習に行った経験」は大きな武器になることは断言できます。面接官や人事課の方は一日何十何百という数の大学生の話を聞くわけです。サークル、バイト、ゼミ、留学、ボランティア…正直、どれも同じような話です。それらは、もちろんみなさんも私も含めて本気で頑張ったことだと思います。それでも人事の方々のことを考えれば、似たような話から採用するに値する人物を見定めることもものすごく神経を使うのですよね。そんな時に「図書館実習」というのは比較的珍しいものだと思います。それでいて、実習内容はほとんどが対人サービスですから、どんな職種を希望するにしても汎用性があります。皆さんの個性をアピールする武器の一つになるのではないのでしょうか。

もちろんこんなに打算的である必要はないのですが。とにかく、私は図書館実習に初めて、と言うと先生たちの前で居心地が悪いですが、「司書課程」を取って本当によかったと思いました。学部の講義に加えて司書の講義まで取ってもういやだ…みんなみたいに早く帰りたい…と思いながらも、2年あるいは3年、単位を積み重ねてきた私たちへの最後のご褒美だったのだなあという感じです。皆さんにもぜひ、図書館という実際の場で生き生きとした学びを経験してもらいたいなあと思っています。皆さんの実習が充実したものになることを心より願っております。ありがとうございました。